

種名	ミ ク リ Sparganium erectum 					
	分類	被子植物単子葉類ミクリ科	俗称	ヤガラ	生活型	多年草、抽水植物
分布	北海道、本州、四国、九州に分布するほか、アジア、ヨーロッパ、北アフリカの温帯に広く分布する。					
形態	根:根茎は径4～5mmの円柱状の泥の中を横走し、節から茶褐色のひげ根を出す。 葉:4～5月頃、葉が水面から抜き出て立つ。葉は濃緑色で光沢があり、扁平で線形、長さは100～180 cm、幅8～22 mmあまりで、背面に1個の稜がある。葉の下部は海綿質の柔らかい葉鞘となって茎を抱き、先端は丸いか、少しくぼむ。 茎:茎はやや太く、堅くて直立し、高さ50～100 cmになる。 花:花期は6～9月。茎の上部が分枝して球状の穂をつける。雌雄同株で、雄の花穂は雌より多く、枝の上部につき、雌の花穂は約5個あって下の方につく。 果実:果実は堅果であるが、雌の穂が熟すと球形の果実の集合体となり、特徴のある大きい金米糖状になる。					
類似種	ミクリの仲間は互いによく似ており、識別が難しい。主な種の見分け方は下表のとおりである。					
生息場所	各地の池沼や水路、水湿地などの浅い水中に群生する。泥底の浅い水中から直立する。					
繁殖	種子と根茎(地下茎)で越冬し、繁殖する。 ミクリの堅果には多量の胚乳を含む種子が1個でき、落下あるいは水により運ばれて広がる。発芽時には、種皮の一部が蓋のようにはずれる。 根茎は横走して広がり、先端に新しい株を作って増える。					
他生物との関係	ネクイハムシ類の食草である。					
配慮のポイント	ミクリの生育する環境は主に河川本流から分断された水たまりや谷戸などの止水部である。このような止水部はヤンマ類などの幼虫や両生類の生息場所になっており、比較的小規模なものであっても水生生物にとって重要な空間となっている。そのため、これらの生育・生育場所の保全にも十分に配慮する必要がある。 大型抽水植物が魚類の産卵や隠れ場として利用されるので、生育場所を保護する必要がある。					
トピック	果実が集まってできる果球が栗に似るので、実栗(ミクリ)とよばれる。					
その他						
引用文献:『川の生物図鑑』を改変						